海外レポート	**ベトナム　ホーチミン**

「Zalo と電子決済」

石川　幸

＜Zalo（ザロ）＞

ベトナムのソーシャルメディアとして、日本でよく利用されている LINE に似たポジションにあるのが Zalo（ザロ）です。

【Zalo アイコン】

Zalo は、無料で通話できることなどから日常的なコミュニケーションツールとして使われています。2023 年になってベトナム人口は 1 億人を突破しましたが、2023 年時点で 7,500 万の Zalo アカウントがあると言われています。

最近では、企業側も Zalo のアカウント開設を増やしており、カスタマーサービスのチャネルとしての活用を強化しています。

他の SNS での競合関係としては、以前は、Facebook も人気があるアプリだったものの、最近は Zalo の方が人気となっています。ベトナム・モバイル・マーケティング協会（MMA）とディシジョン・ラボ（Decision Lab）が発表した 2023 年 1～3 月の「The Connected Consumer」によると、Zalo はベトナムで最も使用されている SNS で、利用率は 86％とトップ、続いて Facebook が 71％でした。

＜電子ウォレット：MoMo と Zalo Pay＞

ベトナムでも電子決済が注目されています。Zalo は Zalo Pay（ザロ ペイ）をすでにスタートさせており、銀行と連結して、直接振込、タッチ決済（NFC 経由）、QR 読取での支払、通販サイトでの商品やサービスの購入、通話料のチャージ、電気代や水道料金の支払いなどを行うことができます。圧倒的な Zalo ユーザー数を背景に、Zalo Pay は急速にユーザー数を増やしています。ただし、電子決済では MoMo（モモ）が先行者としてトップシェアを握っており、前述の「The Connected Consumer」によると、電子ウォレットでのシェアは、MoMo が 68%、Zalo Pay が 58%となっています。動きが早いベトナム市場の動向は、これらに反映されてくると思います。

【Zalo Pay アイコン】　【MoMo アイコン】

＜ベトナム、ビザなし渡航 45 日に拡大＞

2023 年 8 月 15 日より、ベトナムは、日本国籍保有者に対して、ビザなし滞在の期間を 15 日から 45 日に拡大しています。これまで同様、ベトナム入国時に帰路の航空券を保有していること、パスポートの残存期間が 6 ヶ月以上あることなどが前提となっています。コロナ禍にあったさまざまな規制もすでに撤廃されており、個人的な旅行やビジネスに、より渡航しやすい環境へ戻っています。ヨーロッパの著名な観光地ではオーバーツーリズムも報道されるようになりましたが、ホーチミン市ではまだまだ貪欲に外国人観光客を歓迎しているように思われます。ただし、ホーチミン市の中心部では、朝夕の車などの渋滞に少々注意が必要です。

ホーチミン市中心部で見かける外国人観光客が目に見えて増加しているのは良いことですが、それに伴いスリ・置き引き、詐欺、トラブルなども増えている模様です。現地における肌感覚として、従来どおり治安は比較的良いものの、油断すると起こる軽犯罪は多くあります。外務省の海外安全ホームページなどで常に最新情報をアップデートし、「現地に応じたリスク対策」も身に付けるようお願いします。